説教20221030イザヤ1：10-20、ルカ19：1-10「救いの訪れ」

今日のイザヤ書の最後、20節には「かたくなにそむくなら」と記されていまして、このかたくなさというのは、聖書が説くところの人間の罪の一つです。

主は更に、モーセに言われた。「わたしはこの民を見てきたが、実にかたくなな民である。出エジプト記/ 32章 09節

この様に、主なる神は、神の民が、頑なであること、頑固であることに、最初から心をとめてそれをどうにかしようとされてきたのです。では、なぜ、頑ななことが罪なのでしょうか。信仰というのは、頑なにイエス・キリストを信じて、つき従って行くことではないのか、と言われそうですが、頑なな心でイエス・キリストを信じ続けようと、力んでいればかえって続かないかも知れません。なぜならば、頑なな心というのは、即ち聞く耳を持たないということであり、時に適って聞こえてくる、神の御言葉をも聞くことが出来なくなるという事態にも陥りかねないことだからです。

私たちは、この世の時の流れの内を歩まされていますので、神の御言葉は、順次聞かれることになります。それは、あたかも、ギターやピアノの旋律が、それに相応しいコード進行に伴われるように、次々と変化をしていくのです。より正確に言えば、神の御言葉は不変ですが、それを聞く私たちの耳には、それは流れる音楽の様に、次々にちがう旋律とハーモニーで響いて来るのです。

例えば、有名なイサク奉献の箇所でアブラハムは最初主なる神から次の様に言われます。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」

しかし、三日後に山の上で、アブラハムが、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした、そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけました。彼が、「はい」と答えると、御使いは言いました。「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」

この様に主なる神は、時の流れの内に、私たちと応答しながら、相応しく、前言を翻すお方です。それに対し人間は、頑なさによって、前言を翻すことをためらったり、或いは前言に執着して、いつまでもそれに頼って前進しようとしますが、そうしていると、神の新たな御言葉を聞くことが出来ずに、ますます辛い状況に陥りかねないのです。

主なる神は決して頑固な神ではありません。そして私たち人間の振る舞いに応じて、応答をされる方です。今日の、イザヤ書には主なる神のそのような応答の仕方がわかり易く記されています。

雄羊や肥えた獣の脂肪の献げ物に／わたしは飽いた。雄牛、、雄の血をわたしは喜ばない。

むなしい献げ物を再び持って来るな。香の煙はわたしの忌み嫌うもの。新月祭、安息日、祝祭など／災いを伴う集いにわたしは耐ええない。

お前たちの新月祭や、定められた日の祭りを／わたしは憎んでやまない。それはわたしにとって、重荷でしかない。それを担うのに疲れ果てた。

これらの献げ物も祝祭も、全て、主なる神ご自身が定められたことであるにも関わらず、今や、それらを主なる神は喜ばず、憎んでやまないとまではっきり言われています。この様に、生きている主なる神は、私たち人間と応答して、時に適った新たな御言葉によって、私たちを最後まで導こうとされているのです。

この時、主なる神が最も言いたかったことは次の通りです。

論じ合おうではないか、と主は言われる。たとえ、お前たちの罪が緋のようでも／雪のように白くなることができる。たとえ、紅のようであっても／羊の毛のようになることができる。

主なる神は、決して、高いところから絶対服従の命令を下すお方ではなく、人間に対し、論じ会おうではないかと言って、語り合う場へと招いて下さるお方です。そして、イヤな者はいや、にくいものは憎いとはっきり言われるようなお方なのです。私たちは、自分の心を頑なに閉ざすことなく、そのような主なる神について行きたいと願います。

さて、今日のルカ福音書では、有名な徴税人ザアカイの話が記されています。彼は、エリコという豊かな街の、徴税人であり、しかもその頭だったのですから、それは、相当な金持ちで、又、多くの部下を従えていた人だったのでしょう。頭となるには相当の長い時間をかけて、その仕事に従事していたのでしょう。しかし、彼は、神の民の共同体からは排斥されかねない程の嫌われ者であり、今の私たちからすれば、その辛さは想像することが出来ないかも知れません。なぜなら、今のこの世の中は、はっきり言いまして、お金崇拝の世の中になってしまっているからです。現代では、お金さえあれば、多少汚いことに手を染めても、豊かに幸せに暮らしていけると言ったような思い込みがありますが、果たしてそれはそうでしょうか。

それはさておきまして、少なくとも、ザアカイの生きた時代には、お金崇拝に全国民が染められているということはなかったようです。それで、ザアカイは、神の民の共同体の中で、神に対して正しくない者として、いわば隅っこ暮らしを強いられて、肩身の狭い、孤独で不幸な日々を強いられていたのでした。

そのザアカイのもとに訪ねて来られたのが、肉をとって人となられた主なる神イエス・キリストであります。主イエスは、人々の陥っている頑なさを解きほどくために来られました。主イエスは、この時、論じ会おうではないかと言って、ザアカイらを語り合う場へと招いて下さって、その場で、ザアカイと語り合って、彼の罪を赦し、救われたのでした。

それではザアカイがこのとき救われた成り行きを見ていきたいと思います。このザアカイも救われる前は、頑なな人の１人であったことでしょう。彼がそれまでどんな人だったのかを黙想しますと、とにかく自分の懐に多くのお金をためて、そのお金を利用して人の関心を買い、人を動かして、人に認められて幸せになりたいと思って、頑張ってきたのでしょう。しかし、それゆえますます人から嫌われていったようです。彼は行動力があり、それを持続させるだけの頑なさを発揮して、徴税人の頭にまでなったのでしょう。そうして彼は、この時、これからどうしたものかと、行き詰っていたのではないでしょうか。もうこれ以上同じように頑張っても無理なんじゃないかと、悟っていたかもしれません。先週の説教でお話ししました神殿に上った徴税人の様に、『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』と度々、主なる神に祈っていたかもしれません。

私たちが、或る行動を取るに至るまでには、その前段階として、思いや考えをめぐらす時間があります。ザアカイも、うわさに聞く主イエスのことも考えながら、その長い黙考の時を過ごしていたのだと思われます。そして、遂に主イエスにまみえるチャンスが到来します。彼は、イエスを見るために、走って先回りして、いちじく桑の木に登りました。彼は、持ち前の行動力でもって、主イエスを見て、どうにかしようと思ったのです。しかしそれからの成り行きは全て、主イエスの導きの内にあり、ザアカイはその手の内に包みこまれたと言ったような成り行きなのです。ザアカイは、主イエスに見つけられ、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」と声を掛けられ、その声に従って、喜んでイエスを自宅に迎えました。そして、「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」と主イエスに言いました。私たちは、このザアカイの発言により、ザアカイがそれまでの頑なさから解き放たれ、新しい救いの道へと招かれたことを知るでしょう。

主イエスが来られる時、私たちは、常に、新しい食事の席に招かれています。そして、主イエスと私たちが語り合っていく中で、私たちの頑なであった心が解き放たれ、主イエスの救いの道という正しい方向へと向きなおらされます。それが、今日のルカ福音書の視覚的にも鮮やかに、子ども達の目にもわかり易い、ザアカイの救いの出来事で示されていることです。

私たちが、頑なになっていくということは、私たち自身にはコントロールできることではありません。旧約の時代に、いくら主なる神が、私は雄羊や肥えた獣の脂肪の献げ物を喜ばず、新月祭、安息日、祝祭を憎むのだと明言されても、当時の神の民の共同体は、それらを今まで通りの仕方で続行することを止めることが出来ませんでした。

そんな私たち人間の頑なさをご覧になって主なる神は、最愛の一人子いえす・キリストを、人として、此の地上へと遣わされたのでした。そうして、主イエスは、十字架に釘打たれて、死なれ、それから三日後によみがえられて、今は、天の主なる神の右に居られます。地上の私たちからは、その姿を見ることは出来ませんが、私たちは、最後の時に、顔と顔とを合わせて主イエスと再会することを今、待ち望んでいるのです。

冒頭に、信仰というのは、頑なにイエス・キリストを信じて、つき従って行くことと申しましたが、それはその通りですが、私たちはその道を、頑なな心でではなく、しなやかな心を以って歩んで行く必要があります。

主イエスは、豊かな憐れみと慈しみをもってザアカイの罪を赦されましたが、それは、ザアカイが、それまでの頑なな生き方を悔い改め、新しい救いの道へと招かれる出来事でありました。その過程で、ザアカイは、なんの捧げものも持たないで、主イエスと交わり、自らの悔い改めた心を差し出したのです。ホセア書６章６節に記されている、わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない。

という御言葉が、この時実現したのです。

主イエスの新しい救いの道は、私たち人間が、過去の成功体験や幸せに頑なにしがみついて歩まされる道ではありません。それは、日々、主イエスの御言葉を新たに聞き入れ、それによって、新たな救いの道へと更新されながら歩まされる道であります。ザアカイの身の上を考えても、頭であるザアカイがこのように改心したら、果たしてその部下たちは明日からどうなる？と言ったような、人間には想像できないような物語がその先に待っていることでしょう。そしてその物語の一つひとつが、主イエスの御言葉に聞きながら実現されていく時、私たちが、今、置かれているところで、それぞれにふさわしい主イエスによる救いの時が、更新されていくことを信じます。

祈り

父なる神よ

あなたは、豊かな憐れみと慈しみを持って、「主よ、憐れんで下さい」という私たちの祈りを聞き届け、私たちの罪を赦し、あなたの救いへと招いて下さいます。その幸いを覚え、あなたに感謝と賛美を捧げます。

この地上にあって、今日も、多くの人々が、この様にあなたに救われている出来事を覚え、あなたの御前にあって喜んでいます。しかし、一方で、あなたの眼差しから隠れている多くの人たちが、悩み苦しんでいます。どうかその一人一人にあなたが目を留めて、そのかたくなな心を解放し、御子イエスと共に歩む道を、喜びをもって告げ知らせて下さい。

私たちが、言葉や態度をもって、その喜びの道を証しし、告げ知らせていくことが出来ますように。

私たちをも、日々救いの出来事に招き、苦しみの中にあっても、あなたの救いに生きるその生涯を、常に、あなたが祝福してください。

父と聖霊と共に